

# 広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]  
(平成18年2月解析分)

## 1 疾患別定点情報

定点把握(週報)五類感染症

平成18年1月分(平成18年1月2日~1月29日:4週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	12,396	26.95	8.54	↑	12	ヘルパンギーナ	5	0.02	0.04	
2	RSウイルス感染症	237	0.82		↓	13	麻疹	1	0.00	0.03	
3	咽頭結膜熱	73	0.25	0.13	↖	14	流行性耳下腺炎	600	2.08	0.82	↘
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	275	0.95	0.84	↘	15	急性出血性結膜炎	3	0.04	0.03	
5	感染性胃腸炎	3,373	11.71	11.88	↖	16	流行性角結膜炎	104	1.37	0.93	↗
6	水痘	693	2.41	2.22	↘	17	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
7	手足口病	6	0.02	0.15		18	無菌性髄膜炎	8	0.10	0.03	
8	伝染性紅斑	58	0.20	0.18	↗	19	マイコプラズマ肺炎	11	0.13	0.16	↓
9	突発性発しん	174	0.60	0.62	↗	20	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
10	百日咳	5	0.02	0.01		21	成人麻疹	0	0.00	0.00	
11	風しん	1	0.00	0.01		「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	↗	↖	↗
↓	↘	↖	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む)

### 定点について

定点情報は、定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について、県内188の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾患No.	1	1~14	15,16	22~25	17~21,26~28	
定点数	45	75	20	27	21	188

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	39	1.70	2.05	↘	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	110	5.24	4.82	↘
23	性器ヘルペスウイルス感染症	12	0.52	0.55	↘	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	42	2.00	2.36	↘
24	尖圭コンジローマ	12	0.52	0.49	↗	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	4	0.19	0.32	
25	淋菌感染症	15	0.65	0.93	↗	「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均（定点当り）					

インフルエンザ  
RSウイルス感染症  
マイコプラズマ肺炎

急増（12月1,388件 1月12,396件）  
急減（12月508件 1月237件）  
急減（12月27件 1月11件）

## 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

一類感染症 発生なし  
 二類感染症 2件【細菌性赤痢 2件（広島市保健所管内）】  
 三類感染症 発生なし  
 四類感染症 5件発生【レジオネラ症 2件（芸北地域保健所管内1件，広島市保健所管内1件）】  
     A型肝炎 2件（広島市保健所管内 1件，福山市保健所 1件）  
     E型肝炎 1件（福山市保健所管内）  
 全数把握五類感染症 2件発生【急性脳炎 2件（広島市保健所管内）】

## 3 一般情報

### 今冬のインフルエンザの流行について

このシーズンのインフルエンザの流行は、昨シーズンに比較すると6週ほど早めに推移しており、第4週（1月23日～29日）に定点あたり42.15人でしたが、第5週（1月30日～2月5日）28.64人、第6週（2月6日～12日）16.57人と減少に転じており、ピークは過ぎたものと考えられます。しかしながら、昨年は、流行が長引き、引き続き注意が必要です。

### インフルエンザの予防対策

<手洗い，うがいが基本です。インフルエンザは予防から>

- ・流行時期は，概ね1月から3月です。
- ・人込みなどから帰宅した際には，手洗い，うがいを行いましょ。
- ・外出時には，マスクを着用し，人込みはなるべくさけましょ。
- ・食事は栄養バランスを考えたメニューを心がけましょ。
- ・咳などの症状を有する方が医療機関を受診する際は，必ずマスクを着用ましょ。

### 高病原性鳥インフルエンザについて

最近，高病原性鳥インフルエンザ（H5N1）が世界的に流行しています。渡航先における，高病原性鳥インフルエンザの鳥やヒトの発生状況を確認し，発生国では鳥との接触を避けるなど，注意が必要です。

高病原性鳥インフルエンザの潜伏期間は2～4日で，症状は発熱，頭痛，全身倦怠感，咽頭痛，咳などの通常のインフルエンザ様の症状から，重篤な肺炎を起こし死に至るものまで様々です。

現在国内では茨城県など一部の地域で低毒性鳥インフルエンザ（H5N2）が発生していますが，ヒトに感染し，発症した例は報告されていません。

海外に渡航される際には，渡航先が高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された地域の場合は，生きた鳥などを販売している市場などに立ち入ることは避けましょ。

更に，この病気が人や鳥で発生が確認されている地域に旅行した人で，帰国後又は帰国後3日以内に発熱やインフルエンザ様の症状など健康の異常を認めたときは，医療機関を受診してください。

### 流行性耳下腺炎の流行について

流行性耳下腺炎については、患者の発生が多い傾向が昨年から続いており、引き続き注意が必要です。

流行性耳下腺炎はムンプスウイルスに感染することにより、両側の頬が腫れ、「おたふくかぜ」とも呼ばれています。

冬から初夏にかけて増加しますが、一年をとおして発生し、3歳から6歳までの幼児、学童に多く見られます。

ムンプスウイルスを含む唾液又は咽頭分泌液の飛沫感染と接触感染によりヒトからヒトにのみ感染します。ウイルスに感染してから12～25日で（通常は16～18日）発症し、症状の特徴は、急な唾液腺に痛みのある腫脹が始まります。腫脹は両耳下腺が最も多く、顎下腺や舌下腺も腫脹します。発熱は唾液腺の腫脹前から出現し、腫脹のピークまで続きます。更に、3～10%に無菌性髄膜炎の合併を引き起こします。

唾液中のムンプスウイルスが排出されますが、発症2日前から症状が出現した後5日頃まで他の人に伝播が可能で、不顕性感染者もウイルスを排出していることから、流行を抑えることは困難です。

特別な治療法はなく、症状を少し楽にする方法が行われます。また、ムンプスワクチンの予防接種（任意）を受けるという方法もあります。

思春期以降の男性では25%に睾丸炎を、思春期以降の女性では30%に乳腺炎を合併します。また妊婦が感染した場合には自然流産することがあります。